

## 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第二小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・第6学年では、生命領域において目標値を上回ったり、近い値が出ていたりしている。
- ・第5学年では、地球領域において目標値に近い値が出ている。
- ・第4学年では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点については、目標値を下回っている値が出ているが、学習内容別では、目標値を上回るものは少ないが、目標値に近い値が出ているものが半数ほどある（とくに生命・地球領域）。

#### (2) 課題

- ・第6学年では、物質・エネルギー領域、地球領域の多くの内容で目標値を下回る結果が出ている。観点別では「思考・判断・表現」において、目標値より10ポイント程度下回っている。
- ・第5学年では、観点別では「知識・技能」において、目標値より10ポイント程度下回っている。内容別に見ても、半数ほどが目標値より10ポイント前後下回っている。物質・エネルギー領域で20ポイント以上下回っているものがある。
- ・第4学年でも物質・エネルギー領域で目標値より10ポイント程度下回っている。とくに「じしゃくのせいしつ」は目標値を20ポイント程度下回っている。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

目標値と比較 △：目標値以上    =：目標値同程度    ▽：目標値未満

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	/	/
第5学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第5学年時)	知識・技能 ▽ 思考・判断・表現 ▽ 主体的に学習に取り組む態度 ▽ (第4学年時)

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回るものが多いが、とくに「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」についての理解が不十分である。生き物のすみかについての理解はできている。	「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」で目標値を大きく下回っているが、「風やゴムのはたらき」、太陽や地面の様子についての見方・考え方はある程度できている。	懐中電灯を太陽に見立てた実験の問題は、実際に行っていないので、よく分からなかった児童が多かったと考えられる。

※「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」については、問題の後半にあるため、時間が足りずに回答が十分にできていない児童が少なくない。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第6学年も第5学年も、全体的に学習内容で、目標値を下回っている。とくに第6学年は、観察を伴う学習について、ポイントを大きく落としている。	第6学年「生命・地球」領域で目標値を上回っているものが多い。第5学年は、多くの内容で目標値と同等の値が出ている。ポイントを落としている「物のあたため方」「電気のはたらき」などは、問題の後半にあったため、問題に取り組めていないことが考えられる。※	第6学年では、「天気の変化」「物のとけ方」については目標値と同等の値が出ている。第5学年では、問題数は少ないが、目標値と同等の値が出ている。最後の問題はポイントが低くなっているが、取り組めていない児童が少なかった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体験的な活動を十分に行うことと合わせて、理科用語などの知識の習得のため、動画視聴などの時間を設ける。	既習事項や生活経験を基にした根拠の伴った予想を立てさせたり、実験結果から分かることを考察させたりする活動を繰り返し行う。また、タブレットを活用するなどして、ノートの書き方・まとめ方を学び合えるようにする。まとめ（わかったこと）の言葉を、児童が自分の言葉で書くようにする。	観察・実験方法の指導や安全指導を丁寧に行う。児童が自ら問題を見出すことができるような、事象提示を行う。

※第3学年は「電気の通り道」「じしゃくのせいしつ」で知識の混同が起きやすいので、学習内容の定着を丁寧に行うようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度までと同様、一人一人が観察・実験・記録を全て行える活動を行う。直接観察できない内容については、模型教材や視聴覚教材などを活用する。合わせて、動画視聴などで、知識や理科用語の定着を図る。	既習事項や生活経験を基にした根拠の伴った仮説を立てさせたり、実験結果から分かることを考察させたりする活動を行う。また、タブレットを活用するなどして、ノートの書き方・まとめ方を学び合えるようにする。まとめ（わかったこと）の言葉を、児童が自分の言葉で書くようにする。	昨年度までと同様、児童が問題を見出すことができるような、事象提示を考える。また、学んだことから、新たな問題を見出す活動を設定する。

(※どの学年においても、学期終盤や3学期に学習が急ぎ足にならないように、1年を通して計画的に学習を進めるようにする。)